



2021年2月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2021年1月14日

上場会社名 株式会社 スリーエフ
 コード番号 7544 URL <https://www.three-f.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山口 浩志
 問合せ先責任者 (役職名) コーポレート統括マネージャー (氏名) 六川 靖夫
 四半期報告書提出予定日 2021年1月14日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 045-651-2111

(百万円未満切捨て)

1. 2021年2月期第3四半期の連結業績(2020年3月1日～2020年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年2月期第3四半期	9,528	3.1	174	59.4	213	54.9	16	85.9
2020年2月期第3四半期	9,833	7.9	429		473		118	

(注) 包括利益 2021年2月期第3四半期 192百万円 (52.9%) 2020年2月期第3四半期 408百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年2月期第3四半期	2.21	
2020年2月期第3四半期	15.70	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年2月期第3四半期	5,180	4,566	76.0
2020年2月期	5,271	4,621	75.5

(参考) 自己資本 2021年2月期第3四半期 3,937百万円 2020年2月期 3,981百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年2月期		3.00		3.00	6.00
2021年2月期		5.00			
2021年2月期(予想)				5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年2月期の連結業績予想(2020年3月1日～2021年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業総収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,500	3.6	250	30.5	300	28.3	0	100.0	0.00

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年2月期3Q	7,707,095 株	2020年2月期	7,707,095 株
期末自己株式数	2021年2月期3Q	132,536 株	2020年2月期	132,536 株
期中平均株式数(四半期累計)	2021年2月期3Q	7,574,559 株	2020年2月期3Q	7,574,669 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(重要な後発事象)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(2020年3月1日～2020年11月30日)におけるわが国経済は、世界経済秩序の混乱期に新型コロナウイルスの感染拡大が拍車を掛けたことで、国内外の経済活動は未曾有の混乱に陥り、景気は急速に悪化しました。緊急事態宣言解除後は、国内の経済活動に回復の兆しが見られるものの、新型コロナウイルス感染症の感染者数が再度増加傾向にあるなど、依然として厳しい状況となっております。

小売業界におきましては、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化に伴いスーパーマーケット業界が存在感を増すなか、各業態が変化したニーズを取り込むために試行錯誤を繰り返しながらも、先行きが不透明な状況が続いております。

当社グループ運営店舗の概況

当社グループは、ローソン・スリーエフへのブランド転換が完了し、この先の中長期的な見通しにある程度の目処を付けることができるようになったことから、社内外の関係者間の目標共有と達成に向けた連携強化・創意を結集し続けるための道しるべとして、2021年2月期を初年度とする7ヶ年の中長期経営計画を策定いたしました。加盟店と同じ目線で一塊となって経営を推進し相互繁栄を実現するために、中長期経営計画では、個店平均日販の継続的な向上を経営における最重要指標と定めております。新型コロナウイルス感染症の影響などにより、短期的には平均日販に若干の落ち込みが生じておりますが、お客様の利用動向への変化対応を続けながら、目標達成に向けた取り組みを進めております。

[ローソン・スリーエフ]

株式会社エル・ティーエフが事業展開する「ローソン・スリーエフ」におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う在宅勤務の広がりや外出自粛の長期化により、オフィス街や行楽立地の店舗を利用されるお客様が著しく減少しました。一方で住宅立地の店舗を利用されるお客様は相対的に増加しており、店舗の立地特性によるお客様の利用動向の変化から個店ごとの売上偏差が拡大しましたが、個店ごとにお客様ニーズに対応した品揃えの最適化に努めてまいりました。当第3四半期は、感染者の減少に伴い、人の移動に対する心理状態が好転したことで、若干の回復傾向が見られましたが、日々の報道に消費動向が左右される状況が継続しております。

商品面におきましては、ローソン・スリーエフの特徴の一つである「青果」や「書籍」などがお客様の利用動向の変化にマッチし、新たな来店動機と客単価の向上に寄与しました。また、ブランド転換の際に冷凍冷蔵ケースを増設したことが奏功し、中食需要の高まりにより冷凍食品の売上は大きく伸長しました。独自商品につきましては、ご好評いただいている「チルド弁当」に加え、「チルド寿司」の売上が大きく伸長していることもあり、引き続き前年を上回る状況で推移しております。「やきとり」につきましては、レジ前什器による対面販売が苦戦していることから、フードパックによる非対面販売の強化に取り組んでまいりました。

お客様の来店・購買動機への取り組みとしては、ローソンによる販売促進活動やエンタテイメント分野の強みを活かした人気コンテンツの活用によるキャンペーンなどの集客効果のある施策と連動して、ローソン・スリーエフ独自の品揃え拡充支援などの施策を同時に行うことで、ご来店いただいたお客様に常に満足していただける売場を提案してまいりました。加えて、新たな取り組みとして、11月中旬から101店舗でフードデリバリーサービス「Uber Eats(ウーバーイーツ)」の導入を開始いたしました。

加盟店への支援策としては、新型コロナウイルス感染症によるお客様の利用動向に合わせた品揃え変化への注力と社会的使命として期待される営業継続を後押しするために、3月より個店ごとの状況に応じた特別支援金の支給を速やかに実施したことも奏功し、業界平均と比較して日販の落ち込みを最小限に抑えることができました。

店舗開発におきましては、3店舗の新規出店、11店舗の閉店を行った結果、当第3四半期連結会計期間末の総店舗数は343店舗となっております。なお、引き続き、ブランド転換後も収益改善が見込めない店舗のリロケートも推進してまいります。

[g o o z (グーツ)]

コンビニエンスストアに対するニーズの多様化に対応するため、当社が新型フォーマットとして事業展開する「g o o z (グーツ)」におきましては、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う緊急事態宣言の発令により人々の移動が制限された影響で、パーキングエリア店舗を中心に極めて厳しい営業活動を余儀なくされましたが、緊急

事態宣言解除後は、政府主導によるGoToトラベルなどの経済政策もあり、売上は徐々に回復基調にあります。

このような状況の中、ご家庭でも「グーツコーヒー」の味がお楽しみいただけるよう、店内で焙煎したコーヒー豆をお持ち帰り用に取り揃えるなどお客様の利用動向の変化に対応してまいりました。また、GoToトラベルを利用して関東近郊圏の行楽地などへお出かけされる方が増えていることから、「地域共通クーポン」を効率的にご利用いただけるよう、500円、1,000円など分かりやすい金額でお買い物できるお得なお土産セットなどの商品を提案してまいりました。緊急事態宣言の発令中は、商業施設の休業や各種イベントの中止などで販売機会を失った地元企業の商品を当社の店舗で販売することで、地元企業の支援・フードロス削減にも協力しております。

店舗開発におきましては、6月24日にJR横浜タワー店をオープンしました。「母店子店方式」を初めて採用し、旗艦店いちょう並木通り店を「母店」として、店内製造したお弁当を「子店」となるJR横浜タワー店に配送するスキームを構築することで、厨房設備にかかるコストの圧縮と店舗面積の縮小を可能としております。今後の新規出店にあたって、出店立地の多様化を模索する一助としてまいります。JR横浜タワー店の新規出店に伴い、当第3四半期連結会計期間末の総店舗数は4店舗となっております。

以上の結果、新型コロナウイルスに加えて天候不順が影響し、当第3四半期連結累計期間の営業総収入は、95億28百万円（前年同期比3.1%減）となり、営業利益は1億74百万円（前年同期比59.4%減）、経常利益は2億13百万円（前年同期比54.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16百万円（前年同期比85.9%減）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間の財政状態につきましては、前連結会計年度末と比較して総資産は91百万円の減少となりました。これは主に現金及び預金の減少等によるものであります。

負債につきましては、36百万円の減少となりました。これは主に未払消費税等及び賞与引当金の減少等によるものであります。

純資産につきましては、55百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金の減少等によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年4月9日に発表しました2021年2月期の連結業績予想について変更はございません。

なお、新型コロナウイルスの感染拡大による当社グループの事業活動に対する影響は、期初の想定を若干上回るものとなっておりますが、連結業績予想への影響につきましては、現時点では軽微であると考えております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,011	3,818
商品	100	93
貯蔵品	0	0
未収入金	101	144
その他	9	70
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	4,223	4,126
固定資産		
有形固定資産		
土地	293	293
その他(純額)	280	299
有形固定資産合計	573	593
無形固定資産		
0	0	0
投資その他の資産		
敷金及び保証金	326	303
繰延税金資産	157	140
その他	102	96
貸倒引当金	△112	△79
投資その他の資産合計	474	460
固定資産合計	1,048	1,053
資産合計	5,271	5,180

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	83	92
未払金	297	323
未払法人税等	7	6
未払消費税等	88	52
預り金	14	20
賞与引当金	86	43
その他	14	20
流動負債合計	594	560
固定負債		
その他	55	52
固定負債合計	55	52
負債合計	649	613
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	5,814	5,814
利益剰余金	△1,855	△1,899
自己株式	△86	△86
株主資本合計	3,972	3,928
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	8
その他の包括利益累計額合計	8	8
非支配株主持分	640	629
純資産合計	4,621	4,566
負債純資産合計	5,271	5,180

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年3月1日 至2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年3月1日 至2020年11月30日)
営業収入		
加盟店からの収入	6,914	6,736
その他の営業収入	42	43
営業収入合計	6,957	6,779
売上高	2,876	2,748
営業総収入	9,833	9,528
売上原価	2,080	2,081
売上総利益	795	667
営業総利益	7,752	7,447
販売費及び一般管理費	7,323	7,272
営業利益	429	174
営業外収益		
受取利息	4	4
受取賃貸料	7	9
受取負担金	19	20
その他	12	5
営業外収益合計	44	39
営業外費用		
支払利息	-	0
営業外費用合計	-	0
経常利益	473	213
特別損失		
店舗閉鎖損失	65	-
特別損失合計	65	-
税金等調整前四半期純利益	408	213
法人税、住民税及び事業税	3	3
法人税等調整額	-	17
法人税等合計	3	21
四半期純利益	405	192
非支配株主に帰属する四半期純利益	286	175
親会社株主に帰属する四半期純利益	118	16

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年3月1日 至 2020年11月30日)
四半期純利益	405	192
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3	0
その他の包括利益合計	3	0
四半期包括利益	408	192
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	122	17
非支配株主に係る四半期包括利益	286	175

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。